

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業
 経常事務事業
 建設事務事業

第5次行政改革大綱第1次アクションプランとの関連

有
 無

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	排水路等維持管理事業							
1-2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	都市計画課	係	下水道係	評価票作成者	治水担当係長 市川一成
1-3 総合計画における施策の体系	節	生活環境 「安全・安心で、うるおいのあるまちづくり」			基本施策	治水対策	コード	1 3 5
	項	生活安全・安心			単位施策(中)	流下促進対策	コード	1 3 5 3
					単位施策(小)	維持管理	コード	1 3 5 3 2
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	市が管理する川・排水断面積が1m ² 以上ある排水路及び洪水調節施設の全てを年2回の巡回監視を行う。		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)		適切な維持管理を行うことで、排水施設の能力を十分に発揮させることができる。		
1-5 事務事業の内容	川・排水路において堆積土砂状況等・破損箇所などの調査を定期的に行って、草刈・堆積土砂の除去及び修繕等の維持管理計画を土木課維持管理係と協力して立てる。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	調査ポイントを定めて、重点的に監視にあたった。	川・排水路の能力を最大限に発揮できるように整備しておくのは必然である。		常に川・排水路を良好な状態に保つことが不可欠であると考えている。	
	平成19年度	〃	〃		〃	
	平成20年度	〃	〃		〃	
	平成21年度	〃	〃		〃	
	平成22年度					
	平成23年度					
	平成24年度					
	平成25年度					
	平成26年度					
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	定期の監視		40(回)	80(回)	4流域(若王子・井堰・正戸・皆瀬川)を2月と8月に行う。

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a(単位)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	直接事業費 b(千円)	8(回)	8(回)	8(回)	10(回)						
	人件費 c(千円)	0	0	0	0						
	合計コスト d(b+c)(千円)	102	102	102	128						
	単位コスト d/a(千円)	102	102	102	128						
	単位コスト d/a(千円)	1回当たり 13	1回当たり 13	1回当たり 13	1回当たり 13	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 平均人件費時間単価3,200円×この事業に携わった時間(1回2時間)×2人

2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標対応実績(回)		8	16	24	34						
後期目標値に対する達成度(%)		10.0(%)	20.0(%)	30.0(%)	42.5(%)						

3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価		A	A	A	A						

4段階評価結果 A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 D : 事務事業の廃止が相当

判断の基準 必要性(必要な事務事業であるか)
 公共性(公が実施する意味があるか)
 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
平成18年度	監視して行くには、専門家の養成が必要と考える。	各川や排水路において、診断カルテや年間管理カレンダーを作成し管理の充実を図る。	維持管理予算が減少するなかで有効な管理を行った。
平成19年度	監視して行くには、土木課維持管理係と連携が重要と考える。	〃	〃
平成20年度	市民と協働で監視をすること必要と考える。	〃	〃
平成21年度	構造物等の施設の老朽化の進捗判断	管理台帳の整備	〃
平成22年度			
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			

4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果	結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。
平成19年度	A	継続して事業を進めること。
平成20年度	A	継続して事業を進めること。
平成21年度	A	継続して事業を進めること。
平成22年度		
平成23年度		
平成24年度		
平成25年度		
平成26年度		
平成27年度		